

学校便り

プラハ日本人学校

TEL : 233 340 000

FAX : 233 322 424

Email: gakko@jpschool.cz

No.922 2018/10/1

JAPONSKÁ ŠKOLA V PRAZE

VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び共に学ぶ、豊かな心と国際性あふれる たくましい児童・生徒の育成」

目指す子ども像

かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子

夏を惜しむ会(バビー・レート) 3・4年生参加

9月15日 Řepy 17区役所前の広場に設けられた特設会場で、プラハ日本人学校の小学部3・4年生が「YOSAKOIソーラン」を披露しました。土曜日にもかかわらず、たくさんの保護者の方が応援に来てくださいました。子どもたちの元気な演舞にチェコの方からも、大きな歓声と拍手が沸き起こっていました。日・チェコの大きな文化交流になりました。



「YOSAKOIソーラン」や「南中(なんちゅう)ソーラン」というと、北海道の稚内市立稚内南中学校を立て直した演舞ということで、「金八先生」などのテレビドラマでも放映され、日本全国の小中学校の運動会や体育大会で団体演舞として取り入れられています。奇しくも、組体操の危険性から全国的に団体演舞の一つの種目として「南中ソーラン」や「デンマーク体操」「フラッグ」などが増加していますので、帰国した際にはすぐに国内の児童生徒に溶け込めるのではないかと思います。

「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」に9月21日到着

2014年12月3日に種子島から打ち上げられた「はやぶさ2」が約3年10か月かかって、9月21日に小惑星「リュウグウ」に80mの近さまで到着したそうです。職員室前にも「初代はやぶさ」の写真を飾っています。「はやぶさ2」もよく似ていますので、ご覧ください。2010年1月の前任校の学校だよりにも、私は次のような文章を掲載しています。

「宇宙関係では、日本は地球と火星の間にある推定500mの小惑星「イトカワ」の物質サンプルを採取して持ち帰る小惑星探査機「はやぶさ」を、2003年5月に打ち上げました。イオンエンジンを主推進機関として使い、惑星間を航行することなど世界初の重要な4つの技術の確立を目指しているそうです。2005年9月に地球から約3億km離れた「イトカワ」周回軌道に到着し、同11月に着陸。2007年4月に地球に向けて出発。そして今年、2010年6月にオースト

ラリア南部に物質サンプルを落下させる予定です。本来ならばもっと早期に帰ってくる予定でしたが、機器の故障など、多くの困難を乗り越えての7年余りに及ぶプロジェクトになったそうです。このプロジェクトで開発された技術は海外でも高く評価されています。「はやぶさ」は、もうすぐ地球の引力圏に到達します。6月の南アフリカでのサッカーワールドカップの頃には、きっと大きな話題となると思います。」

そして、2010年6月には、南アフリカでのサッカーW杯とともに、日本国中が「はやぶさ」の絶体絶命と思われる多くの困難を乗り越えての帰還を喜び、その偉業をたたえました。「はやぶさ」を題材にした映画が3本もつくられました。

「はやぶさ2」の話題は、技術立国日本が、世界に誇れるニュースです。JAXAのホームページなどには、詳しく載っていますので、宇宙に関心のある人もない人も、理科のお勉強としてぜひ見てください。今後、7月に一時帰国するようなことがあれば、神奈川県相模原市にある航空宇宙研究所を訪ねてください。日本の宇宙開発について知ってもらおうと毎年7月の最終土日に、フェスティバルを実施しています。大学院生がやさしく説明してくれるので、小中学生が日本の宇宙開発の歴史を学ぶにはとてもいいと思います。「はやぶさ2」は、2020年に帰還予定なので東京オリンピックのころには、また、大きな話題になっていると思います。